



2018 年度
えんだより
9

社会福祉法人 恵泉福祉会
光の子保育園
園長 長島 博樹

主 題 弾 む

月のねがい

- ☆ 私達の平和な日々を感謝し、神さまの望まれる平和の大切さを考え、祈る。
- ☆ これまでの遊びに加え、夏の経験からの遊びが始まり、試したり相談しながら友達の関係が広がる。
- ☆ 空・星・虫など自然の変化に興味を持ち、友だちと意思を通わせながら関心を深める。
- ☆ 生活のリズムを取り戻し、見通しをもって生活をする。

おことば

わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。
あなたのおきてはわたしの心の内にあります。（詩編40編 8節）

行 事 予 定

9 月

- 01 日(土) 誕生日会(8・9月生れ)
- 05 日(水) ぶどう狩り(3・4・5歳児)・ランチデー
- 07 日(金) 祖父母会
- 17 日(月) 祝日休日「敬老の日」
- 24 日(月) 祝日休日「秋分の日」
- 26 日(水) 結成式

運動会 当日に欠席
される場合は、
8:00~8:30の時間
にご連絡お願いいた
します。

10 月

- 04 日(木) 運動会予行練習
- 05 日(金) ワールド・ワイド・ランチ (今年の年長児モンテッソーリ競技世界地図で扱われる11か国の料理を給食の先生方が作って応援していただきます。)
- 06 日(土) 第39回 運動会(志津小学校グラウンド)
雨天時：志津小学校体育館
- 18 日(木) ブラッシング指導 (ファミリーの園児対照)
- 19 日(金) 遠足(坂田が池公園)・ランチデー
- 23 日(火) ハロウィン

6月9日(土)に行われました「子どもフェスティバル」で、集められたお金は、ラオスの障害を持った子ども達の為に100,000円と西日本災害の為に送らせて頂きました。フェスティバルの後にも、子ども達がお家のお手伝いをして献金してくれたり、光の子祭で募金して下さったお金も合わせて送りました。

不便益

先日、「オーガニック・ライフスタイル・エキスポ 2018」が、東京国際フォーラムで開かれ、光の子のオーガニック給食で使われている材料や野菜の出店、理事長の講演があったため参加いたしました。

「エディブルスクールヤード シンポジウムーエディブルスクールヤードとオーガニック給食実現への提案ー」という講演です。

「エディブルスクールヤード」は、1995年オーガニックレストランのオーナーシェフにより創設されました。アメリカの公立中学校(マーティン・ルーサーキング Jr ミドルスクール)の校庭に菜園とキッチンを設け<必須科目+栄養教育+人間形成>の学習目的を融合させた授業が行われました。その前提には持続可能な生き方、エコロジーを理解する知性、自然界と結ぶ情熱的な絆を学びます。これは現代の学校教育において「食べること」「命の繋がり」を教えることが求められる画期的な教育モデルとして、注目され発展しています。

このエディブルエデュケーションを実践しようと試みている団体として、ふじようちえん(東京都立川市) 園長 加藤積一先生、当光の子の法人恵泉福祉会 長島理事長、いすみ市農林課 生産戦略班主査の鮫田晋さん(学校給食の米をオーガニックにし、「いすみっこ」というブランド米をイオンやJALファーストに提供している)がパネラーとなり発表がありました。

ふじようちえんの加藤先生の講演は、おなじ幼児教育の現場で、子どもがより良く生きるための試みに共感を覚えながら拝聴しました。その中で、新しく建てられた園舎が近代的で、様々な雑誌に取り上げられている「ふじようちえん」ですが、あえて環境に不便さを残しているというお話でした。

どのような事かと申しますと、水道の蛇口は上げ下げやセンサーなど、子どもが使い易く機能性が高く衛生的なものが主流ですが、あえて昔ながらの捻る蛇口にしていたり、電灯はスイッチ式ではなく、紐を引いて付けたり消したりしているとのことでした。

これは、子ども達が物の原理や道理が分かる環境にし、不便だからこそ子どもの手先や握力、筋力などを発達させ、物事の原点や原理に興味を持ったり、知識・理解を深めるといった利益が得られる。これを加藤先生は「不便益」という言葉で表現していました。

光の子では水道はもちろんですが、保育の中で昔ながらの生活を大切にしています。もちろん布おむつはその最たるものですが、夏や「森の日」で経験したドラム缶風呂も同様です。今、お風呂はスイッチひとつでお湯が沸きますが、お風呂の原理としてドラム缶風呂に原点があります。また、園庭に畑があり、子ども達が朝採って来た野菜を、すぐに先生方がテラスで調理し食べさせてくれる事も珍しくありません。ブルーベリーの季節にはそのまま食べるのはもちろん、ジャムやスムージーにして活用しています。今、給食で使っている味噌は、子ども達が昨年豆から作ったものです。夏に飲んだ麦茶は、麦を育て自分達で煎り煮出したものです。

その環境は現代の便利さや気軽さとは逆行しています。これらのものは、買って来れば手軽で便利なものが沢山あります。しかしあえて、子ども達の生活の中にエディブルエデュケーションが体験できる光の子にしたいと、先生方は忙しい中尽力してくださっています。それは人がより良く自分の力を高めようと、健全に育つ意欲を育むためには必要なものと信じています。

「エディブルエデュケーション」は食物を共に育て、共に調理し、共に食べるという体験を通して、生命の繋がりを学び、人間としての成長を促す教育です。

光の子では創設以来取り組まれており、給食のオーガニック化は、一昨年から実現出来るようになりました。

集団給食は、業者から季節に関係なく、必要な野菜が手に入ることや大量に必要な米は安い物である方が良く、時間がない中、大量の料理を作らなければならないため、野菜も形や大きさがそろっている方が使い易く好まれます。しかし、オーガニックにするということは、手間や時間を惜しまず作られた物で、大きさや形はまばらで、天候や季節によって使えない野菜があるなど、学校給食、園給食には使いづらいものではありますが、子ども達に残留農薬の影響がない食事とを考えて、光の子では給食の先生方が努力し、給食だけでなくおやつも手作りにしてくださいました。

今のニーズである便利で手軽で気軽な生活とは逆に、スローライフ、手間をかける生活の中に子どもの育ちの利益となる素が沢山あるのです。

このような考えの光の子は、今年度も早や 6 か月。子ども達は「不利益」から得た力(心身共に)を、10月の運動会で発揮できるよう、また、今だったら乗り越えられる課題に向かって準備が始まりました。

今年の運動会は実写化された映画 ピーターラビットの世界でオープンしたいと思います。「ピーターラビット」は 1902 年に出版され児童文学の古典として世界中で愛されている物語です。この「ピーターラビット」は作者ビアトリクス・ポター(1866年~1943年)が家庭教師の息子さんに書いたお見舞いの絵手紙が原型となっています。

ピーターラビットのお話を要約します

「決して行ってはいけない」といわれているマクレガーさんの農場に、うさぎの末っ子ピーターは門をくぐって入り込み、美味しい野菜を喜んで食べていたところを見つけてしまい大慌て。やっとの思いで家に戻りましたが、その晩お腹の具合が悪くなり、お母さんが入れてくれたカモミールティを飲むのがやっとなりました。

このお話が書かれた 19 世紀イギリスでは産業革命によって社会構造が一変し、生産力の向上、物流の近代化で生活が豊かになった一方、工場という新しい環境の中で子ども達が日常的に過酷な労働を強いられるようになりました。それまでも子どもは生活の労働を担っていましたが、体力的な差による子どもならではの労働から、機械を使った様々な仕事は、子どもの過剰労働を容易に可能にしました。この労働は 12 時間が普通であったといいます。女性の地位も低く、賃金の安い女性や子どもを使い捨てに出来る労働力として酷使されていたようです。

こうして農民が都市部へ流入し都市化が進んだ事で、公害・衛生環境の悪化・犯罪の増大・失業・生活困難者の増加という影の部分の弊害が生み出された時代でした。

その様な中で、作者ビアトリクス・ポターは自分のやりたいことを徹底的に追求し、絵本作家以外に菌類研究科、自然保護活動家という顔を持っていました。

31 歳になった 1897 年、当時は女性の研究者が少ない時代、「分類学の父」と呼ばれるカール・フォン・リンネの名前を冠した「リンネ学会」に、きのこ研究の集大成といわれ

る論文「On the Germination of the Spores of the Agaricineae(ハラタケ属の孢子発生について)」を發表しましたが、完全に黙殺されてしまいました。

このことから、きのこ研究を離れ絵本作家となり「ピーターラビット」が生まれました。

しかし、彼女の描くキノコの水彩画は、専門書「Wayside and woodland Fungi(道端と森のキノコ)」の挿絵に使われるなど、現代において高く評価され、また、動植物を描くことが大好きだった彼女の技術は絵本作品の挿絵にそのまま生かされています。

ちなみに、リンネ学会は 1997 年に性差別があったとしてポターに公式に謝罪しています。

ピーターラビットは、このような時代に生きたポターが束縛と抑圧からの解放、自由への憧れが込められているといわれています。また、ピーターと農夫マクレガーの関係は対立関係ですが、立場が変わればどちらの立場も理解できます。私自身カナダの生活では街路樹にリスが飛び回っている姿を目にして、あまりの可愛さに写真を何枚も撮ったことがあります。すると、ホストマザーは「リスは私達にとっては害獣よ。家中の物をかじってしまうの」と言われ驚いたことを思い出します。この関係は、産業革命時代から在ったのかもしれませんが。

このように、お互い立場の違う者同士が分かり合おうと共存していたことに、自然で豊かで柔軟な人間性が感じられ、近代化やスピーディ、利便性の追求によって失われた子どもと大人の関係がピーターとマクレガーに重なり、表現されてしているようにも感じられました。

この産業革命により、便利を手に入れた時代に逆行して失われた不利益な生活に、愛着を覚えたのではないのでしょうか。

～ ピーターラビットの曲 歌詞 ～

Life's nice on a sunny day	晴れた日は心地いいじゃないか
French press and a plate o'hay	食事の準備をしよう
But some days can't escape the fray	喧嘩をする日だってあるさ
Crazily careening like a bird of prey	タカやワシのように狂ってしまうこともある
This old house is never locked	この古い家はいつだって解放されてるんだ
Even Tiggy Winkers needn't need to knock	Tiggy Winkers さんがノックしない時でも
I promise you	僕は約束するよ
Wind blows and heaven knows	風が吹き荒れ
That sun can turn to rain	青空は雨に変わる
There's nothing much to fear,though	でも人生ってそんなもの
Doors close,it's on the nose	ドアは閉まり
But love can turn to pain	愛は痛みになる
So let's be each other's heroes	それでもみんなヒーローなんだ

ぜひ運動会の日、どうぞ子どもの立場に帰って思い切り楽しんでください。お父様お母様、子ども達、誰もがヒーローになるような運動会になることでしょう。

運動会を楽しみにしてくださっている方、また、サイコロ競技内容を考えて下さったり、係に立候補してくださったり、先生方には差し入れをしてくださる保護者の皆様の暖かい思いを受けて、1 回しかない 2018 年の運動会に向かって行きたいと思えます。